

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイストレーニングⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとしても積極的に活動中。					
授業概要						
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛えるべく、曲を歌いながら使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、発声に必要な体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。					
【前期】 13～17回目	一年次の復習と修正。音呈ではなく'響き'を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【後期】 18～21回目	一年次の復習と修正。高音域を発声に必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合いをコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【後期】 22～26回目	一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 27～31回目	一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 32～34回目	今まで学んだことすべての知識、メソッドを復習し、さらに完成度を高める。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	セルフプロデュース		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	セルフプロデュース		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	自身でもシンガーソングライターとして積極的に活動中。					
授業概要						
学生個々の個性(特性、音楽性)を確認しながらオリジナルsongの作成や、カバーsongの歌唱、ギターボーカル、ダンスボーカル、演奏可能楽器の有無等、学生それぞれに向いている方向を見定め、どのように表現して行く道があるのか？どのような表現方法が向いているか？を探していきます。						
到達目標						
ライブやレコーディングで質の高いパフォーマンスを披露し、人を感動させることができる。またそれらのパフォーマンスや音楽性などをオンラインを通じて発信できるようにする。また発信する上で、自身の強み・弱みを分析しながら活躍フィールドに適した発信方法を自身で気づきコンテンツ制作ができる人材を育成していく						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	授業の目標共有や受講者の経験・志向を把握し、影響を受けた音楽の発表と議論を行う。発声準備や歌唱実践、表現技法の習得を通じて課題を共有し、楽曲に適したテンポ設定と演奏力向上を目指す。					
【前期】 5～8回目	録音機材や方法、喉ケアや心構えを学び実践。振り返りと音源発表方法を理解し、楽曲選定を行う。ライブ想定の演奏で課題を確認し、観客を惹きつける表現力向上を図る。					
【前期】 9～12回目	表情や所作、観客を惹きつける演出を強化し継続練習。MCの役割や適切な伝え方、事前準備を学ぶ。最終的に通しリハーサルを経て、本番のステージで成果を発表する。					
【前期】 13～17回目	発表後の振り返りと議論を行い、今後の目標を再設定。次の発表に向けて練習を重ね、内容の復習と試験準備を実施。最終的に録音と演奏を伴う実技試験で成果を評価する。					
【後期】 18～21回目	・自己実現のための目標設定をする、現在地との距離と目標に向かって何をすべきかを言語化する ・SNSの基礎知識を理解する(各SNSの役割と特徴) ・それぞれのSNS基礎知識(Instagram、TikTok、YouTube、X、ライブ配信等)					
【後期】 22～26回目	・ロールモデル、ペルソナ設定の仕方 ・プロセスエコノミーから学ぶファン化 ・ファン化のためのライブ配信					
【後期】 27～31回目	・他者プロデュース(プロデューサー目線でさまざまなものをプロデュースしてみる) ・プロデューサー目線になり、どうしたら発信が届くのかを考えられるようになる ・チームでそのアーティストをプレゼンし、自分だったらどうするかを考えられるようになる					
【後期】 32～34回目	・クラウドファンディングでの資金調達とマネタイズ、案件の取り方 ・自分ならどんな発信をしていくかをまとめ ・投稿後の分析、ABテスト、形ができたその後など、自身でPDCAを回せるようになる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルテクニックⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
1年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やおケの演奏に対して必要なテクニックを理解、習得し表現力を高め伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観にふさわしい表現を練りこみ、「伝わる歌」を歌えることをめざし、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「自由曲の中でのアタック、アクセントの習得」の一年次の復習、修正 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・子音の長さ及び、強さとの関係 ・おケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5～8回目	「自由曲の中でのダイナミクス、クレッシェンド・デクレッシェンドの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 9～12回目	「自由曲の中でのヴィブラートの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践 ・エッジヴォイス、ヴォーカルクライの習得					
【前期】 13～17回目	「自由曲の中でのエッジの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【後期】 18～21回目	「自由曲の中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なスケールトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【後期】 22～26回目	「自由曲の中でのファルセット・ウィスパークヴォイス・フォールの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 27～31回目	「自由曲の中でのブレスアビール、ブレスカットの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 32～35回目	「自由曲の中でのヒーカップ、グロウルなど特殊テクニックの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルクリエイト		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルクリエイト		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	様々なジャンルの歌唱法を得意としている。コンサート、レコーディング等にヴォーカリスト、コーラスとして参加。 それと並行してヴォーカルコーチとしてアーティスト、俳優、声優など後進の育成を手掛ける。					
授業概要						
1年次に掴んだ自分のスタイルを更に極める為に、発声、テクニック、ステージングなど全ての面をスキルアップ。個々の声質、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を一年次よりも確立させ、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	1年次にある程度絞り込んだヴォーカルスタイルを学生に口頭で説明させ、実際に歌唱で確認。 声質、音域、現時点で身につけているもの、足りないものを提示及び解説し、残りの一年間で学ぶべき内容を正確に自覚させる。					
【前期】 5～8回目	発声面の良いところと1年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 9～12回目	発声面、技術面の良いところと1年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 13～17回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ボーシングの設定と変化に関して) フルコーラスの仕上げ、1年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて） 前期試験					
【後期】 18～21回目	発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して＋支え、滑舌)					
【後期】 22～26回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ＋プレスアビール、アクセントなど)					
【後期】 27～31回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 32～35回目	フルコーラスの仕上げ、1年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて） 後期試験 総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	楽曲創作Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	楽曲創作Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	シンガーソングライターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	バンドでメジャーデビューをし、その後作家として活動。シンガーソングライターとして活動する傍ら、作詞・作曲家として楽曲提供。バンド・シンガーのプロデュース、編曲を手掛ける。					
授業概要						
自身のオリジナル楽曲を作るにあたり音楽理論を含む様々なアプローチでオリジナル楽曲を創作。 基礎から応用まで個々のレベルに合わせた個別の指導。弾き語りでのバックイングの奏法やDAWを使ったオケ制作、音源MIX等の方法を学ぶ。						
到達目標						
オリジナル楽曲を1つでも増やせる様にする。 ライブパフォーマンスが出来る様になる。(ギター、ピアノの弾き語りやDAWを使ったパフォーマンスを向上させる)コード進行(キー)を自分で考える。楽曲のコードに対してメロディーが何度になるかを理解する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	・創作の準備と計画 ～キーの概念を知り、コードを知る					
【前期】 5～8回目	・ダイアトニックコード進行を作る ～モチーフ作りとメロディーとコードの関係の理解					
【前期】 9～12回目	・ダイアトニックコード進行での楽曲作り					
【前期】 13～17回目	・楽曲及びパフォーマンスについての考察					
【後期】 18～21回目	・マイナーキーを知る ～マイナーメロディーのライティング					
【後期】 22～26回目	・ノンダイアトニックコード進行を作る ～ノンダイアトニックコード進行の使用及び定番進行の引用					
【後期】 27～31回目	・ステージでの自作曲披露の要点を知る					
【後期】 32～35回目	・自身の音域を知り、その範囲内でのキー設定確認方法等					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	AG & KEY II		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	AG & KEY II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のグループでも活動中。					
授業概要						
アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 アコースティックギター：初心者に向けたアコースティックギターの基本的な扱い方。リズムに対する重要性、コードに対するバリエーション。 作曲の為のツールとしてのギターの扱い方。 キーボード：鍵盤演奏に必要なベーシックなスキルを習得する。音感やリズム感覚を身に付けるトレーニング。並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キーボードに慣れ親しむ。						
到達目標						
アコースティックギター：ベーシックなコードワークに対応出来るようにする。右手のピッキングタッチ、及びリズムのバリエーションを習得する。カッティング、アルペジオの奏法を習得する。フィンガーピッキングを習得する。 キーボード：コードの響きを聞き分け、弾くことができる。両手を使い楽曲演奏ができ、表情を加えることができる。キーボードに沢山触れ、慣れ親しむ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	アコースティックギター：レベルチェック及びそれぞれの音楽スタイルをチェック キーボード：コードベーシックの確認					
【前期】 5～8回目	アコースティックギター：ジャンルに合わせた演奏スタイル① キーボード：テンションコードのボイスング					
【前期】 9～12回目	アコースティックギター：ジャンルに合わせた演奏スタイル② キーボード：コードアレンジ、転調					
【前期】 13～17回目	アコースティックギター：ジャンルに合わせた演奏スタイル③ キーボード：両手で作るリズム					
【後期】 18～21回目	アコースティックギター：3フィンガーピッキングのバリエーション キーボード：スタイル別のバックギングリズムパターン①					
【後期】 22～26回目	アコースティックギター：ジャンルに合わせた演奏スタイル④ キーボード：スタイル別のバックギングリズムパターン②					
【後期】 27～31回目	アコースティックギター：アンサンブルの中でのギター演奏 キーボード：アンサンブルの中でのキーボード演奏					
【後期】 32～35回目	アコースティックギター：簡単なソロギター的アプローチ キーボード：オリジナル曲または課題曲演奏、年間のまとめ					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	音楽理論Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース・シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	メジャーアーティストのサポート活動でキーボーディストを始める。 講師業の傍ら、現在もアーティストのサポート、音楽制作等の活動中。					
授業概要						
コードアナライズ、ボイスンギ(ハーモニー)スケール等の理論的アイデアの向上と習得。サウンド作り、作曲、編曲の幅を向上させる。						
到達目標						
既存楽曲のコードアナライズ分析と研究。スケールからのフレーズ作りの向上。音楽知識の向上でサウンドのレベルアップ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	コードアナライズT.SD./SDM.SecDom.、ナチュラルマイナー、ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの解釈と確認の復習。 ドミナントモーション5-1の理解の確認エクササイズ。ダイアトニック上で使えるテンション、b9thインターバルのアボイドノートの解説とエクササイズ。					
【前期】 7～11回目	2-5進行でのA.form/B.formボイスンギ、ドミナント、トライトーン解説とエクササイズ。スプレッドボイスンギ、ドロップボイスンギ、アッパーストラクチャートライアドの解説とエクササイズ。 2-5-1-6の進行のボイスンギエクササイズ、トップノートの流れを意識したボイスンギをエクササイズ。					
【前期】 12～15回目	クロマチックスケールを2つに分けるホールトーンスケールをaugコード/3つに分けるディミニッシュスケールとコード、ドミナントコードとトライトーンの解説とエクササイズ。					
【前期】 16～17回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、オルタード、Lydb7th,Hmp5downスケールの解説。 コードアナライズとコード進行に対してのスケール、アプローチノートの解説フレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 18～23回目	7つのモードスケールと各スケール上のダイアトニックコードの解説。モーダルインターチェンジの解説と楽曲分析にフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 24～27回目	ブルースコード進行の種類と解説、ミクソリディアン、ブルーノートスケールの説明とフレーズ作り、サンプルフレーズのエクササイズ。					
【後期】 28～33回目	ドリアンモード、ペンタトニックスケール上にできる4thボイスンギの解説。循環コードでの使用エクササイズ。 ハンガリアンマイナースケールなどの異国情緒的スケールの解説、参考コード進行でのフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 34～35回目	コードアナライズ、コード進行に対してのスケール、ボイスンギの復習。 6thdimコードワークの解説とドロップ2ボイスンギも使ったエクササイズ。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	DAW II	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲、ミックスマスタリングなど 自身で行うなど幅広く活動している。				
授業概要					
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)になる知識、実践方法を学ぶ。他コース と関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 18～25回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成				
【後期】 26～30回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 31～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。				
授業概要					
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング				
【前期】 3～14回目	ミュージックビジネス				
【後期】 15～28回目	ミュージックビジネス				
【後期】 29～33回目	ビジネス文書				
【後期】 34～35回目	所得税と源泉徴収・確定申告				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						